



5、学校の森と授業時間の関係について（該当する番号と（ ）内の文言に○）

- 1) 授業時間で取組み（ 通常の授業 、 校外学習 ）  
2) 授業時間以外で取組み（ 休み時間 、 放課後 、 休日 ）

【以下授業で活用している学校への質問】

6-1、学校経営方針の下で森を使った授業の位置づけ

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 子ども達の自然体験機会が減少する中で貴重な体験学習と位置づけている  
2) 総合的な学習の時間に相応しいテーマと位置づけている  
3) 自校の特色ある学習と位置づけている  
4) 環境学習の様々なメニューの一つと位置づけている  
5) 地域に開かれた学校を目指す一環の授業と位置づけている  
6) ESD の推進にとって重要な要素と位置づけて取り組んでいる  
7) 震災を受けて防災・減災の視点を含めて取り組んでいる  
8) 屋外での授業に学習効果が見られることに着目して取り組んでいる  
9) その他（ ）

7-1、授業で森を活用する視点（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 森では子ども達の集中力が高まり、学習を進めやすい  
2) 森での体験を通じて学んだことはエピソード記憶として長期記憶に繋がる  
3) 森での体験を通じて自然への感性を養うことができる  
具体的には、  
① 自然の中で伸び伸びと過ごすことで養われる感性  
② 森の多様性を前に生態系の繋がりを理解する感性  
③ 自然なしに人間は生きられないが、同時に自然は人間の脅威にもなりうる存在であることを理解する感性  
4) 森での体験学習では、子ども達が自ら課題を発見するという行動に繋がる  
5) 子ども達の主体的な行動が生きる力を身につける行動に繋がる  
6) 森の中で答えのない課題に取り組むことによって、教室では消極的な子どもが積極的に行動できる  
7) 森の中での行動は、子ども同士で助け合う行動を誘発する  
8) 先生以外の地域の人等が学習に参加することで子ども達の視野が広がる  
9) 森という地域資源を学ぶことで地域を知り、更に地域を誇りに思うことで、そこに住む自分自身の有用感が高まる  
10) その他  
( )

8-1、学校の森の活動を行っている対象学年、授業科目、年間時間数について

(下記の表の該当する欄に年間授業時間数を記入)

科目	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
生活科	6	10					16
総合的な学習			3		4	4	11
国語					2		2
算数							
理科				6		10	16
社会			3		8		11
道徳							
図工							
その他							

9-1、学校の森の授業で伸ばしたい子どもの力（該当する番号に○：複数回答可）

1) 気付き、驚き、不思議等の自然に対する豊かな感性

2) 探求する力

3) 子ども達同士で協力し、助け合う行動をとる力

4) より良く生きる為の知恵を身につけること

5) より良く生きる為の提案を出せる力

6) 自らの提案を実行する力

【以下授業以外で活用している学校への質問】

6-2、授業での活用を行っていない理由（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 森での活動を授業に取り込む必要を特段感じていない、
- 2) 森での活動を授業に取り込みたいが現時点では障害がある
- 3) その他（ )

7-2、6-2で2）と回答した学校へ 授業で活用する上での障害について

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 各教科で習得すべき単元数が増加し、余裕が無い
- 2) 総合的な学習に相応しいテーマが森の活用以外に別にある
- 3) 森はあるが整備されていないので利用できない
- 4) 先生だけでは指導ができず、外部の指導者もいない
- 5) 森の整備にはお金がかかるので、継続して活用することが困難
- 6) その他（ )

8-2、子ども達にとっての有用性について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 家庭では自然と接する機会が少ないので貴重な自然体験の場となっている
- 2) 屋外で体を動かすことで子ども達が健康になった
- 3) 助け合う等子ども達同士の関係が良好になっている
- 4) 学校の先生以外の地域の人等との人間的なつながりで視野が広がる
- 5) その他（ )

【以下全ての学校への質問】

10、学校の森の活動の指導者について（該当する番号に○）

- 1) 先生が主体
- 2) 森林管理署、NPO、PTA等の先生以外が主体
- 3) 先生と森林管理署、NPO、PTA等の先生以外の協同態勢
- 4) その他（)  
森林管理署、NPO等の学外団体の具体名（)

11、指導の場面で地域の協力を得ている学校についての質問

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 学校について地域の理解が得られ、地域と学校との関係が良好になった
- 2) 先生の地域への関心が高まった
- 3) 地域の人々の力を借りることで子ども達の授業への関心も高くなった
- 4) 子ども達が自分の地域を好きになり、自己有用感が高まっている
- 4) 地域の人々との調整で時間がとられて先生は大変になった
- 5) その他（)

12、学校の森についてのPTAの関わり（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 森の整備についてボランティア協力
- 2) 森の活動時の見守りについてボランティア協力
- 3) 森の整備や備品の購入等の活動経費の支援協力
- 4) 特段の支援はない
- 5) その他（)

13、12でPTAの協力を得ていると回答された学校へ 具体的な内容

保護者が代表になり、児童・教職員・地域の方々・卒業生で組織する緩やかな人の集まりを作り、毎月、最終土曜日の午前中に、学校林の保全活動や、学校林の竹を活用した遊びを行っている。

14、学校の森の活動に必要な道具について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 軍手
- 2) 長靴
- 3) ノコギリ、鎌
- 4) 木工関係の道具
- 5) 観察板・虫取り網・飼育ケース
- 6) その他（ 虫よけスプレー等 ）

15、14の道具の用意について（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 学校で購入
- 2) 外部からの寄付
- 3) 子ども達の家庭から持参
- 4) 森林管理署、NPO等の学外団体からの借入れ（具体名： ）
- 5) その他（ 助成金を活用して購入する ）

16、14の道具の購入以外に学校の森の活動に要する費用について

（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 指導者謝礼
- 2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用
- 3) 樹名板等の林内設置物の費用
- 4) 児童／生徒の森までの往復交通費
- 5) その他（ ）



21、学校の森の平成26年度の活動と前年度の活動比較（該当する番号に○）

1) 前年度より進化

具体的には（教育活動で活用することが増えた。また、地域や保護者と連携した活動が増えた。）

2) 前年度より後退

具体的には（ ）

3) 前年度と変わらない

4) 平成26年度から開始

5) 前年度のことは判らない

6) その他（ ）

22、学校の森の平成27年度の活動についての展望（該当する番号に○）

1) 平成26年度より進化させたい

具体的には（教育場面での活用をさらに増やすことと、簡単にできる森の保全活動を定期的・継続的に実施していくこと。）

2) 平成26年度なみのことを維持していきたい

3) 平成26年度より後退する危惧あり

具体的には（ ）

4) その他（ ）

23、活動中止の危機の有無（該当する文言に○）

あり、なし

ありの場合以下のどういった背景か？（該当する番号に○：複数回答可）

1) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる恐れがある

2) 森の整備の担い手がいなくなって藪に戻ってしまう

3) 森の活動で事故が起きて安全管理面での問題を指摘される

4) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下

5) その他（ ）

24、活動中止の要因として考えられること

特になし、 想定できる

想定できる場合以下のどういった背景か？（該当する番号に○：複数回答可）

- 1) 校長交代
- 2) PTA 会長交代
- 3) 指導役の先生の異動
- 4) 協力団体の中断
- 5) 教育委員会の方針変更
- 6) 森の所有者との関係悪化
- 7) その他（ )

25、活動継続に向けた対応（該当する番号に○）

- 1) 特に必要性を感じない
- 2) 必要性は感じるが対応は出来ていない
- 3) 一定対応している

具体的には、（該当する番号に○：複数回答可）

- ① PTA の支援を要請
- ② 転入してきた先生を活動の推進役に育成
- ③ 学外の運営協力者／団体を学校経営にも参画させている
- ④ 教育委員会の支援を要請
- ⑤ 森の活用校で連携して活動の成果を普遍的なものにする
- ⑥ 学校評価での実績づくり
- ⑦ その他（ )

26、自由記入欄

学校経営方針など文書化されたものが提出可能であればコピーを同封して下さい。

以上アンケートに回答頂き、ありがとうございました。